

令和7年度事業報告

令和7年度から始まった第3次山田まちづくり計画に基づき、「笑顔のまち、住みよいまち、やまだ」という大目標のもと、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という考えに基づき、「防災・防犯、安全環境、健幸、青少年健全育成を含めた人材育成と学区内の様々な人々を繋ぐ絆づくり、組織の活性化」などの地域課題の具体的な解決・解消を目指して下記の重点事項を中心に取り組みました。

【重点事項】

《新まちづくりセンター開設準備委員会》

令和8年秋に予定されている新山田まちづくりセンターのオープンに向けての準備委員会を10月に設置し、全体会と3グループ(移転準備、式典等準備、運用・企画)に分かれて分科会方式で検討を進めた。

具体的には、

- ① 現センターの移転に向けての事前の物品の整理と在庫確認
- ② 新センターの備品調達の検討や竣工イベント企画の検討
- ③ 積極的なセンター活用へ向けた仕組みづくりについては、市との調整をおこなった。

上記3つのテーマに取り組み、新センターオープンに向けて準備を進めてきました。

《山田学区防災対策の充実》

山田学区における意識向上について、関西大学の近藤教授のアドバイス(台風による小学校倒壊の教訓を風化させるべきでない)に基づいて、防災グループを中心に防災講演会を開催した。また、「いざっ」という時に備えての無線機の通信訓練をおこなう事で、各町の防災組織と学区防災本部の間で情報交換や意思疎通が図れるよう取り組み始めた。地区防災計画の見直しについては、新センターの建設が始まったばかりで、具体的なイメージを掴みきれず見直し作業に着手できなかったのが反省点となった。

《未来へ向けての人材育成と学区内の絆づくり》

小学生から大学生までの次代を担う人づくりについて、多彩な企画を通じてリーダーシップを身につけてもらいつつ自主性と山田に対する愛着を深めてもらえるよう取り組むことを目的にアドベンチャーハウスを11月に開催すると同時に「YCC(山田チャレンジクラブ)」を立ち上げ、自立心あふれた人材育成に着手した。

また、協議会の主催する「メロンまつり」や「やまだ秋まつり」を開催し、いずれも1,000名を超える来場者でにぎわった。人と人をつなげ、地域の良さを実感できる機会を提供できた。また、次世代の中心を担う「ヤマミラ」メンバーに

においては、メロンシャーベットの販促活動や新規企画のレモンシャーベット発案とレモンの試験的栽培、新山田まちづくりセンター開設準備委員会をはじめ当協議会活動の様々な面で積極的な活躍をしていただいた。

《組織体制の活性化にむけて》

令和7年度については、総務委員会が中心となり、各団体を代表する方に委員会に出席していただき、それぞれの課題やまち協への要望等を共有する機会を設けた。特に、安定的に運営されている団体と役員の担う人材不足や事業展開に悩まれている団体もあり、まち協として、今後どのような支援や協力をしていくべきなのかという課題を見共有させていただいた。今まで地域のコミュニティの中心を担ってこられた各団体に対して、これまで以上にまちづくり協議会の重要性和組織機能の強化の必要性が高まってきたのではないかと考えられる。この事については、次年度へ引き続いての課題として取り組んでいくこととした。

以上、4項目を令和7年度の活動の柱として、まち協役員や学区内の様々な力をお借りしながら取り組んだ。その他、まち協グループの取組や各団体で取り組んでいた事業については、別紙にまとめさせていただきました。

